

日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）

追加型投信／海外／債券／インデックス型

交付運用報告書

第133期（決算日2017年6月16日） 第134期（決算日2017年7月18日） 第135期（決算日2017年8月16日）
第136期（決算日2017年9月19日） 第137期（決算日2017年10月16日） 第138期（決算日2017年11月16日）

作成対象期間（2017年5月17日～2017年11月16日）

第138期末（2017年11月16日）	
基準価額	8,733円
純資産総額	63,139百万円
第133期～第138期	
騰落率	2.5%
分配金（税込み）合計	150円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）」は、2017年11月16日に第138期の決算を行ないました。

当ファンドは、先進国債券および新興国債券に実質的な投資を行ない、先進国債券指数と新興国債券指数を合成した指数の動きに連動する投資成果をめざして運用を行なっておりましました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

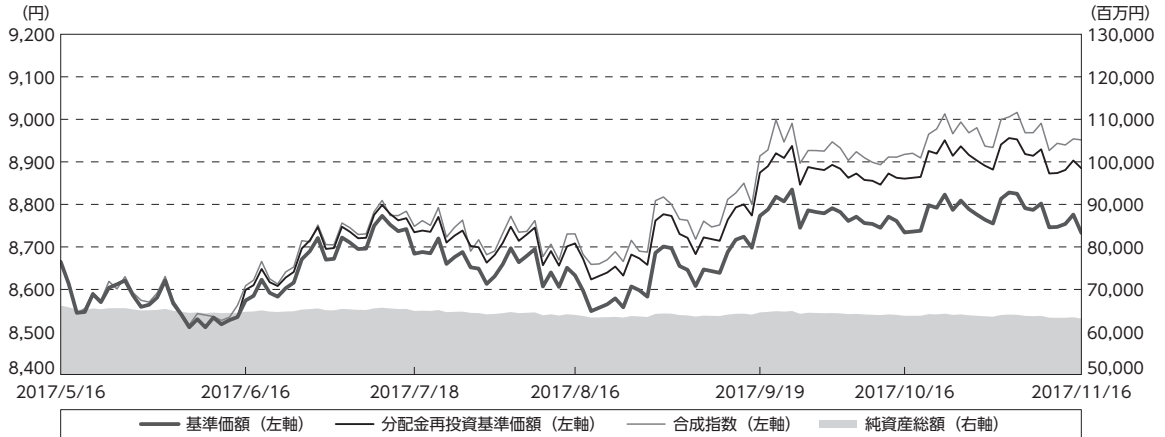
コールセンター 電話番号：0120-86-2514
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2017年5月17日～2017年11月16日)



第133期首：8,665円

第138期末：8,733円（既払分配金（税込み）：150円）

騰落率：2.5%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および合成指数は、作成期首（2017年5月16日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、先進国債券および新興国債券に実質的な投資を行ない、先進国債券指数「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」80%と新興国債券指数「J Pモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」20%を合成した指数の動きに連動する投資成果をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

以下の要因による「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値上がり。

- ・米国政権とロシアとの不透明な関係への疑惑を背景とした米国政治の停滞が懸念されたこと。
- ・北朝鮮情勢の緊迫化によるリスク回避の動きが強まったこと。
- ・欧州中央銀行（E C B）が2017年以降に量的緩和（Q E）を縮小していく方針を示しつつも極めて慎重に動くことと強調したこと。
- ・円安／ユーロ高、円安／イギリスポンド高となったこと。

以下の要因による「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値上がり。

- ・米国連邦準備制度理事会（F R B）による利上げペースの緩和観測を受けて新興国からの投資資金流出懸念が和らいだこと（期間の初め～2017年9月上旬）。
- ・米国において、市場予想を下回る雇用統計の発表やインフレ指標の落ち着きを背景に長期金利が低下したこと（期間の初め～2017年9月上旬）。
- ・原油価格が上昇したこと。

<値下がり要因>

以下の要因による「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値下がり。

- ・E C Bが金融緩和政策を微調整する可能性を示唆したこと（期間の初め～2017年9月上旬）。
- ・F R B議長が段階的な利上げ継続の必要性について言及し、米国の2017年12月の追加利上げ観測が強まったこと。
- ・米国での税制改革案によるインフレ期待が高まったこと。

以下の要因による「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値下がり。

- ・北朝鮮による相つぐ弾道ミサイル発射を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったこと。
- ・F R Bによる保有資産の縮小が決定され、2017年末に追加利上げが実施されるとの観測が強まったこと（2017年9月中旬～期間末）。
- ・米国の税制改革が進展するとの期待から米国長期金利が上昇したこと（2017年9月中旬～期間末）。

1万口当たりの費用明細

(2017年5月17日～2017年11月16日)

項 目	第133期～第138期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 47	% 0.544	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(21)	(0.245)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(24)	(0.272)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	(2)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.017	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.011)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	(0)	(0.003)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	48	0.561	
作成期間の平均基準価額は、8,680円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

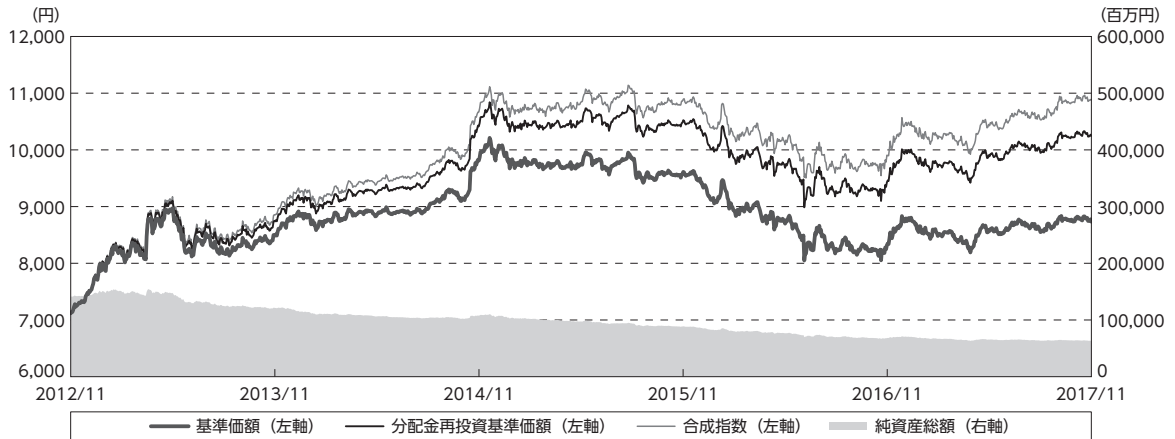
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2012年11月16日～2017年11月16日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および合成指数は、2012年11月16日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2012年11月16日 決算日	2013年11月18日 決算日	2014年11月17日 決算日	2015年11月16日 決算日	2016年11月16日 決算日	2017年11月16日 決算日
基準価額 (円)	7,117	8,499	9,825	9,510	8,278	8,733
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	240	275	300	300	300
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	22.9	19.2	△ 0.2	△ 9.9	9.2
合成指数騰落率 (%)	—	24.5	20.4	1.2	△ 9.0	10.8
純資産総額 (百万円)	140,948	121,529	107,837	87,978	67,928	63,139

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

投資環境

(2017年5月17日～2017年11月16日)

(先進国債券市況)

先進国の債券市場では、米国、ドイツなど各国の10年国債利回りは、期間の初めと比べてまちまちの動きとなりました。

期間の初めから2017年9月上旬にかけては、米国金融当局者の利上げに前向きな発言や、ECB総裁が金融緩和政策を微調整する可能性を示唆したことなどが利回りの上昇（債券価格は下落）要因となったものの、米国政権とロシアとの不透明な関係への疑惑により米国政治の停滞が懸念され投資家の安全資産への逃避需要が強まったことや、FRB議長がインフレ率は利上げが必要となるような状況ではないと言及したこと、北朝鮮情勢の緊迫化によるリスク回避の動きが強まったことなどから、投資対象国の10年国債利回りは総じて低下（債券価格は上昇）しました。9月中旬から期間末にかけては、ECBが2017年以降の量的緩和策の縮小ペースについて慎重なスタンスを示したことなどが利回りの低下要因となったものの、イングランド銀行（BOE）総裁が利上げ実施の可能性を示唆したことやFRB議長が段階的な利上げ継続の必要性について言及し米国の12月の利上げ観測が強まったこと、米国の税制改革案に対するインフレ期待の高まりなどを背景に、各国の10年国債利回りは総じて上昇しました。

(新興国債券市況)

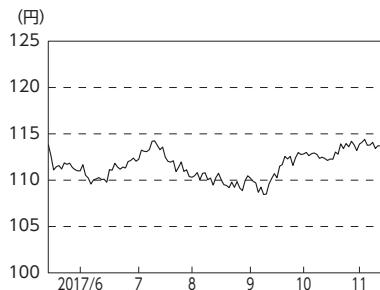
新興国債券指数は、期間の初めと比べて上昇しました。

期間の初めから2017年9月上旬にかけては、北朝鮮による相つぐ弾道ミサイル発射を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから新興国債券指数が下落する局面があったものの、FRBによる利上げペースの緩和観測を受けて新興国からの投資資金流出への懸念が和らいだことや、米国において市場予想を下回る雇用統計の発表やインフレ指標の落ち着きを背景に長期金利が低下したことなどから新興国債券指数は上昇しました。9月中旬から期間末にかけては、北朝鮮に対する国連の制裁決議が当初案を下回る穏便な内容となり朝鮮半島情勢を巡る警戒感が緩和したことや原油価格が上昇したことなどは新興国債券の下支えとなったものの、FRBによる保有資産の縮小が決定され、年末に追加利上げが実施されるとの観測が強まったことや、米国での税制改革の進展への期待から米国長期金利が上昇したことなどが影響し、新興国債券指数は下落しました。

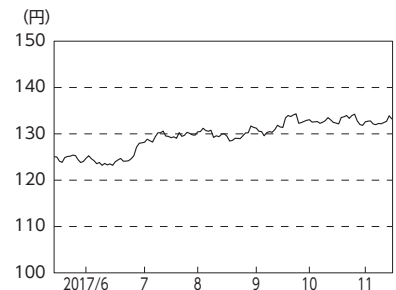
(為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、右記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



円／ユーロの推移



当ファンドのポートフォリオ

（2017年5月17日～2017年11月16日）

（当ファンド）

当ファンドは、信託財産の純資産総額の80%程度を「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券、20%程度を「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資し、運用を行ないました。

（海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）

債券のリスクコントロールモデルによりベンチマークが採用している国の債券の中からポートフォリオを構築し、運用を行ないました。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しを行なうとともに、債券の組入比率を高位に維持することで、ベンチマークとの連動性を保つよう努めました。

（海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）

債券のリスクコントロールモデルを使用して、ベンチマーク採用国の銘柄でポートフォリオを構築しました。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、毎月ポートフォリオの見直しを行なうとともに、債券の組入比率を高位に維持することで、ベンチマークとの連動性を保つよう努めました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2017年5月17日～2017年11月16日）

期間中における基準価額は、2.5%（分配金再投資ベース）の値上がりとなり、ベンチマークである「合成指数」の上昇率3.3%を0.8%下回ることとなりました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

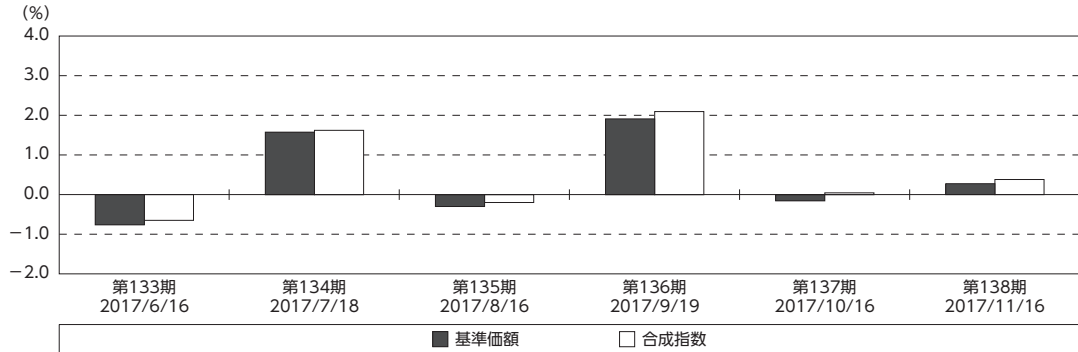
<プラス要因>

- ・銘柄選択による効果。

<マイナス要因>

- ・投資国の選択による影響。
- ・債券および為替取引に関する諸費用。
- ・外国口座の管理費用。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

分配金

(2017年5月17日～2017年11月16日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第133期	第134期	第135期	第136期	第137期	第138期
	2017年5月17日 ～2017年6月16日	2017年6月17日 ～2017年7月18日	2017年7月19日 ～2017年8月16日	2017年8月17日 ～2017年9月19日	2017年9月20日 ～2017年10月16日	2017年10月17日 ～2017年11月16日
当期分配金	25	25	25	25	25	25
(対基準価額比率)	0.291%	0.287%	0.289%	0.284%	0.285%	0.285%
当期の収益	16	24	15	25	14	18
当期の収益以外	8	0	9	—	10	6
翌期繰越分配対象額	416	415	406	406	396	389

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、原則として信託財産の純資産総額の80%程度を「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券、20%程度を「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資を行ない、「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と「J Pモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」をそれぞれ80%と20%の配合で合成した指数に連動する投資成果をめざします。

（海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）

引き続き、これまでの運用方針を継続します。原則として債券のリスクコントロールモデルを使用してポートフォリオを構築し、ポートフォリオの金利感応度などの属性をベンチマークである「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と同程度に保ち、連動性を高めるように努めます。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しなどを行なうとともに、債券組入比率を高位に維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）

引き続き、これまでの運用方針を継続します。原則として債券のリスクコントロールモデルを使用してポートフォリオを構築し、ベンチマークである「J Pモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」との連動性を高めるように努めます。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しなどを行なうとともに、債券組入比率を高位に維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

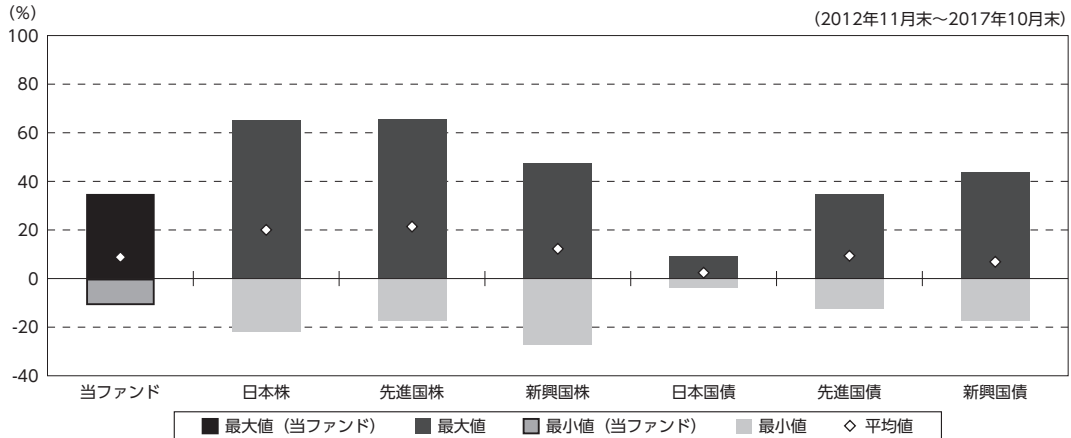
2017年5月17日から2017年11月16日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券／インデックス型	
信託期間	2006年6月12日から原則無期限です。	
運用方針	主として「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券および「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資を行ない、「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と「JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」をそれぞれ80%と20%の配分で合成した指数に連動する投資成果をめざします。	
主要投資対象	日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）	「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券および「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	内外の公社債を主要投資対象とします。
	海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	新興国の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	先進国債券の運用は、主として日本を除く先進国の債券に投資し、シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）の動きに連動する投資成果をめざします。新興国債券の運用は、主として新興国の債券に投資し、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）の動きに連動する投資成果をめざします。	
分配方針	第1計算期から第2計算期までは収益分配を行ないません。第3計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。ただし、基準価額水準などを勘案し、上記安定分配相当額のほか、委託者が決定する額を付加して分配を行なう場合があります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	34.8	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△10.9	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	8.8	20.0	21.4	12.3	2.4	9.4	6.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年11月から2017年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのベンチマークについて

●合成指数

合成指数は、投資先の親投資信託のそれぞれのベンチマークを基本投資比率で合成して算出しています。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年11月16日現在)

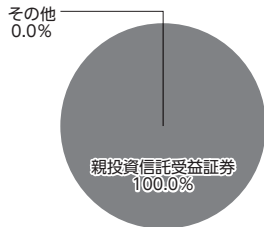
○組入上位ファンド

銘柄名	第138期末
	%
海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	80.2
海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	19.8
組入銘柄数	2銘柄

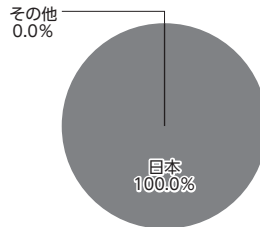
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

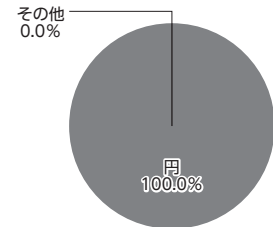
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

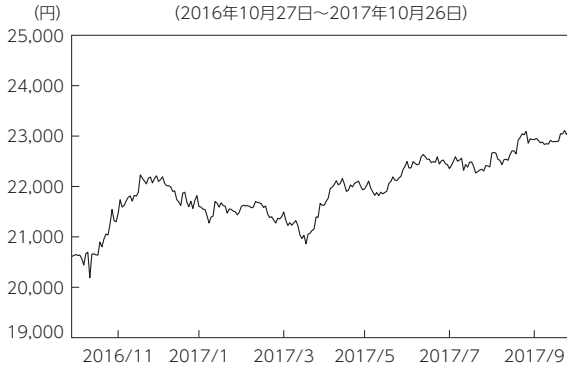
項目	第133期末	第134期末	第135期末	第136期末	第137期末	第138期末
	2017年6月16日	2017年7月18日	2017年8月16日	2017年9月19日	2017年10月16日	2017年11月16日
純資産総額	64,746,390,397円	64,955,195,962円	64,012,051,074円	64,603,040,992円	63,788,183,322円	63,139,579,213円
受益権総口数	75,517,280,915口	74,798,799,936口	74,145,922,427口	73,638,478,613口	73,033,056,209口	72,302,899,284口
1万口当たり基準価額	8,574円	8,684円	8,633円	8,773円	8,734円	8,733円

(注) 当作成期間（第133期～第138期）中における追加設定元本額は570,444,696円、同解約元本額は4,670,916,265円です。

組入上位ファンドの概要

海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2016年10月27日～2017年10月26日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)	円 3 (3)	% 0.015 (0.015)
合 計	3	0.015

期中の平均基準価額は、21,893円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

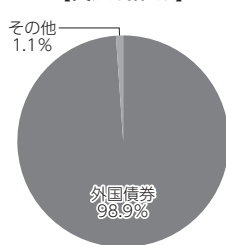
【組入上位10銘柄】

(2017年10月26日現在)

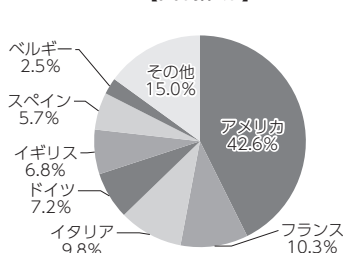
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
				%
1 US TREASURY N/B 8% 2021/11/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	1.0
2 US TREASURY N/B 3.375% 2019/11/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.8
3 US TREASURY N/B 1.875% 2022/7/31	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.7
4 US TREASURY N/B 0.75% 2019/8/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
5 US TREASURY N/B 3.625% 2020/2/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
6 US TREASURY N/B 1.5% 2018/12/31	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
7 US TREASURY N/B 3.5% 2020/5/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
8 US TREASURY N/B 1.75% 2023/5/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
9 US TREASURY N/B 1.75% 2019/9/30	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.5
10 US TREASURY N/B 2.25% 2021/7/31	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.5
組入銘柄数		682銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

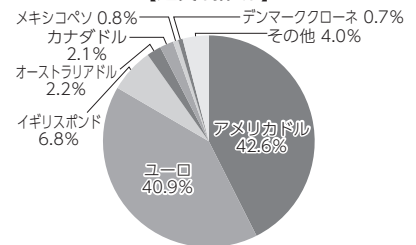
【資産別配分】



【国別配分】



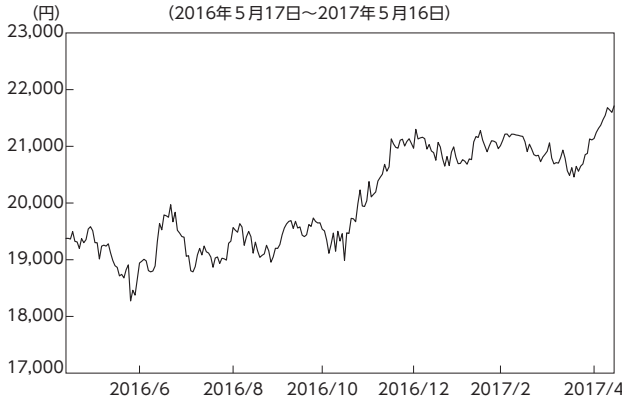
【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
 ※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2016年5月17日～2017年5月16日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用	9	0.044
(保 管 費 用)	(9)	(0.044)
(そ の 他)	(0)	(0.000)
合 計	9	0.044

期中の平均基準価額は、20,104円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2017年5月16日現在)

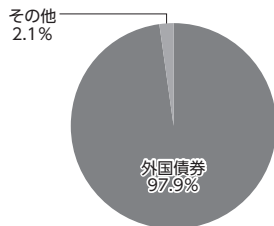
	銘 柄 名	業種/種別等	通貨	国 (地域)	比率
					%
1	RUSSIA FOREIGN BOND 7.5% 2030/3/31	国債証券	アメリカドル	ロシア	4.4
2	RUSSIA FOREIGN BOND 11% 2018/7/24	国債証券	アメリカドル	ロシア	1.5
3	REPUBLIC OF TURKEY 7.375% 2025/2/5	国債証券	アメリカドル	トルコ	1.5
4	UNITED MEXICAN STATES 4.75% 2044/3/8	国債証券	アメリカドル	メキシコ	1.4
5	REPUBLIC OF COLOMBIA 5.625% 2044/2/26	国債証券	アメリカドル	コロンビア	1.3
6	RUSSIA FOREIGN BOND 5% 2020/4/29	国債証券	アメリカドル	ロシア	1.3
7	FED REPUBLIC OF BRAZIL 4.875% 2021/1/22	国債証券	アメリカドル	ブラジル	1.3
8	FED REPUBLIC OF BRAZIL 5.625% 2041/1/7	国債証券	アメリカドル	ブラジル	1.2
9	REPUBLIC OF TURKEY 4.875% 2043/4/16	国債証券	アメリカドル	トルコ	1.2
10	REPUBLIC OF PANAMA 6.7% 2036/1/26	国債証券	アメリカドル	パナマ	1.1
	組入銘柄数			137銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

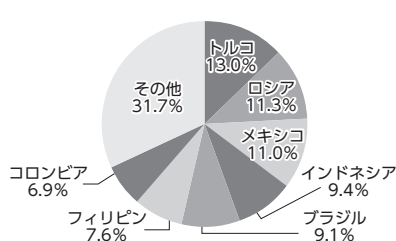
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

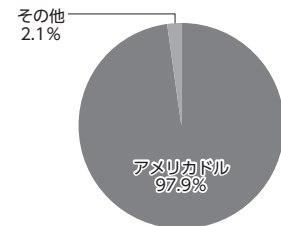
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。